カメあら Camera A la carte

まちの出来事

1/18 交通事故の撲滅を
（市役所）

びほく農業協同組合と全国共済農業協同組合連合会県支部（岡山市）から、夜光たすきなど７種類の交通安全用品を寄贈していただきました。

びほく農協の田村晴己組合長らが市役所を訪問。「交通事故が相変わらず多い。有効に活用していただきたい」と目録を市長に手渡しました。

寄贈された交通安全用品は、交通事故防止のために役立てられます。

1/26 みんなで考えた給食
（川上小学校）

全国学校給食週間（１月24日～30日）に合わせ、川上小学校６年生が考えた献立が市内小中学校の給食に登場しました。メニューは、地元産の特産品を使用した「豚肉と弥高こんにゃくの炒め」「根菜の三沢みそ汁」「七地パン」など。家庭科の授業で実際に作ってみるなど研究を重ね考えたものです。

児童が考える献立は、平成21年度の小学生子ども議会での提案で始まり、今回で３回目。

1/27 大切な森林を守る
（市役所）

市は、ＪＸ日鉱日石エネルギー（東京都）と「エネオスの森」森づくり協定を結びました。同社は、地球環境との調和を経営理念としており、今後10年間、森林の保全に取り組みます。

活動の場所は、松山「高梁美しい森」の市有林5.37ヘクタール。ＮＰＯ法人「フォレストフォーピープル岡山」が活動を支援。同社社員と家族が植樹や下刈りなどの管理を行います。キノコ栽培や自然観察会も計画しています。

1/18 障害者施策の充実を
（市役所）

市身体障害者福祉協会（中山彰芳会長）から１千万円の寄付金を頂きました。

中山会長が「障害者のための基金設立に役立てていただきたい」と目録を市長に手渡しました。

寄付金は、障害福祉功労者の顕彰や障害者の地域活動の支援のために基金を設立し、活用する予定です。

1/29 感謝を込めて発表
（布寄小学校）

「新春ふれあい芸能発表会」（同実行委員会主催）が開かれ、布寄小の児童７人が日頃の学習成果を発表しました。

芸能発表会は毎年恒例の行事で、地域住民と学校が合同で開催。布寄小が３月末で閉校するため、同小として最後の発表となりました。

劇は保護者や学校に感謝を込めた脚本を熱演。保護者や教職員、卒業生たちによる校歌の合唱や合奏もありました。

2/5 ウオーキングで交流
（巨瀬町）

有漢、巨瀬、中井地域のまちづくり団体で構成される三地域懇談会が、「有漢・巨瀬・中井交流ウオーキング」を開催しました。

118人が参加。巨瀬地域市民センターを出発し、昼食をはさみ咳止神社までの6.31キロを歩きました。甘酒やイノシシ汁の振る舞い、巨瀬町にちなんだクイズ大会も楽しみました。参加者は、近隣地域の人と交流を深め、楽しいひとときを過ごしていました。

編集後記

▼厳しい寒さが続き、朝はなかなか布団から出られない毎日ですが、この時季楽しみにしているのが、雪の結晶を写真に収めることです。冷え込んで雪が降った日にはカメラを持ち出し、レンズ越しに見えてくるさまざまな形の小さな結晶に自然の神秘さを感じ、とても癒されます。こうして寒さを忘れ、気分転換で元気をもらって、紙面づくりのエネルギーにすることもできました。（ＨＯ）

▼毎朝、通勤の時に自動車の温度計で気温を測っています。２月初めの寒波の時には、マイナス９度を記録しました。立春を過ぎましたが、まだまだ寒い日が続きそうです。今月号で、自殺予防に関する調査を紹介しました。高梁市は、自殺死亡率が全国平均に比べ低い結果が出ています。統計から民生委員さんや地域の声掛けの効果が現われているようです。寒い中ですが、地域のつながりを感じて温かい気持ちになりました。（ＫＨ）

▼２月４日に宇宙科学展へ取材に行き、宇宙の不思議を探ろうツアーに同行しました。一緒に話を聞いている子どもたちの「なんで？」という問い掛けの言葉を聞いた時、自分が常識にとらわれて物事を考えていることに気付かされました。「常識」は大切なものです。しかし、常識にとらわれない発想や偶然に出くわした時のその重要性への気づきと探究心、そして行動力もこれからは必要と感じました。（ＫＹ）